

平成29年度 学校評価【分掌・学科・学年部】

A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値(%)	評価	反省及び次年度への課題等
				A	B	C			
総務部	PTA活動の充実	PTA会報等の発行により、保護者への情報発信を行う。	PTA会報等についての保護者アンケートでのA・Bの割合	A	B	C	82.4	A	年間3回発行しているが、それ以上の発行は予算的にもむずかしいと思われる。内容については申し分ない。
	広報活動の強化	ホームページ更新講習会を複数回開きと同時に、担当部署に働きかけながら、更新回数を増やす。	ホームページに関する保護者アンケートでのA・Bの割合	A	B	C			
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒アンケートで遅刻0に向けて努力したと回答した生徒・教職員の割合	A	B	C	95.5	A	遅刻に対する生徒の意識は年を追うごとに高まってきており、さらに皆勤という高い目標を目指している。
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各科専門資格への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。	1、2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合。3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合。	A	B	C			
生徒指導部	校外で積極的に挨拶をさせる	生徒会、風紀委員、教員と毎朝の挨拶運動を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。	校外で挨拶ができていると答えた生徒、教職員の割合。	A	B	C	94.6	A	全校集会や学年集会で行内外問わず挨拶をすることを呼び掛けている。引き続き活気ある出農を目指し呼び掛けていく。
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年会などでの呼びかけ、学期に1回の街頭指導、警察と月1回の街頭指導について連携しながら注意・指導をしていく。	交通マナーを意識し、自転車の安全運転で登下校をしていると答えた教職員の割合。	A	B	C			
進路指導部	体系的・計画的な進路指導体制の構築	進路ガイダンス・進路ミュージカル・各種テスト・CCP(1・2年生)・面接指導(3年生)等は進路決定に役立っている。	「進路指導部の取組は役立った」に対してA・Bを回答した生徒・教職員の割合	A	B	C	95.8	A	各活動に対して、生徒は前向きに参加しており、先生方の協力体制も十分と考える。学年別評価は2年生が一番低く90.9なので、2年生のプログラムについて特に検討したい。
	進路検討会や進路希望調査を活用した進路指導	進路検討会や進路希望調査は生徒理解に役立ち、進路決定を促している。	「進路検討会は教職員の生徒理解に役立ち進路決定を促している」に対してA・Bの回答をした教職員の割合	A	B	C			
健康相談部	保健関連行事の適切な運営	健康診断や健康教育、安全点検や環境整備作業など、生徒の健康管理や良好な教育環境の維持に資する各種行事を適切に行う。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合	A	B	C	81.6	A	各行事は概ねスムーズに実施されたものと認識しているが、監督等でご協力をいただく先生方の負担なども考慮しながら、より良いあり方を検討していきたい。
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合	A	B	C			
				80%	70%	60%	90.2	A	ケース会議・相談委員会の開催や学年会への養護教諭の出席等、関係の先生方との連携や情報共有を進めることができた。今後もより効果的な生徒支援へつなげるよう努めている。

図書研修部	授業や研究に役立つ資料の選定・収集に努める。	出張図書館や図書館ニュースを通じて、図書館の資料を紹介する。図書館運営委員会を通じて、先生方のリクエストに応える。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A	B	C	95.8	A	今後も、先生方からご要望のあった書籍・雑誌の購入について、ご期待に応えられるよう努力していきたい。
	生徒の豊かな感性を育む読書指導を行う。	図書委員会主催のイベントや図書館ニュースを通じて、生徒の読書活動を支援する。	「図書館の設備や雰囲気は利用しやすい」という生徒アンケートの「A」「B」の割合。	90%	80%	70%			
寮務部	基本的な生活習慣を身に着ける指導を行う。	あいさつ、時間厳守について毎日実施する。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A	B	C	97.1	A	アヤムが帰る前に乗出し、教員が到着するのを待つ、という行動を徹底した。昨年度よりも3.5ポイント上がったことから成果が伺える。
	寮内外の環境整備を行う。	寮内外の定期的な掃除を行う。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	90%	70%	50%			
農場部	研究活動を推進する	①実験・実習の積極的な展開 ②生徒自らが課題解決学習に積極的に取り組む	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A	B	C	93.2	A	各研究機関、JA、民間会社と連携して一層充実した研究活動に取り組み、成果を出すことができた。
	環境整備の徹底	①役割分担の明確化 ②定期的な点検 ③適切な環境整備計画の立案	「環境整備」を問うアンケートに対する「教職員」「生徒」のA・Bの回答割合	85%	75%	65%			
植物科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C	94.9	A	1年生の中にはまだまだ甘い生徒が見受けられるが、学年が上がるにつれて目標を達成できる生徒が増加している
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	85%	75%	65%			
環境科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C	96.4	A	徐々に時間厳守や服装が改善されている。このような状況が継続できるよう指導したい。
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	85%	75%	65%			
食品科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C	94.5	A	朝終礼、授業の開始準備物等の確認を行い、安全に学習活動が展開されるよう引き続き指導を行う。
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	85%	75%	65%			
				A	B	C	87.9	A	研究内容設定時の目的の裏付けを元に、目的をより明確化することで内容充実に繋がる指導を継続的に行う。農業技術検定等の資格合格率の向上を図る。
				85%	75%	65%			

動物科 科学科	自己管理力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	94.0	A	農場等への移動では時間厳守が徹底できている。服装等も含めて継続して指導していきたい。
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 85%	B 75%	C 65%	75.5	B	課題研究や農業と環境への取り組みについては高い数値が出ていたが、資格試験において低い数値であった。特に2年生でその傾向があり今後の指導課題である。
一年部	目標に向けて行動を起こす生徒を育成する	HR、学習活動等での学校生活、学習指導を行う	「自己評価2・4・9・10・18」についてA,Bの割合	A 80%	B 70%	C 60%	85.4	A	真面目に学校生活や授業に取り組んでいるが、自ら進んで家庭学習に取り組む姿勢や自信をもって自分の意見を発表する力がまだ弱いので、少人数のグループでの話し合いの場を設けるなど授業やHRでさらに取り
	学ぶ意義を知り、多くの人へ広める生徒の育成	マナトレを中心とした学習への取り組み	「自己評価7・8」についてA,Bの割合	A 80%	B 70%	C 60%	90.1	A	マナトレや各種資格試験の学習を通してコツコツと努力することの大切さ、喜びを体験することで自信を持たせたい。
二年部	学校生活に前向きに取り組む生徒を育成	各クラスや学年集会での指導	「自己評価9～15」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの割合	A 80%	B 70%	C 60%	94.0	A	部活動に積極的に取り組んでいると感じている生徒の割合が低い。部活動に合っていない生徒も、各種活動を通じて活躍の場を与える必要がある。
	進路実現に向けて、自ら学ぶ生徒の育成	総合学習でのマナトレ(6級～4級)への取り組み	マナトレの認定テストに最終的に合格した生徒の割合	A 80%	B 70%	C 60%	94.2	A	マナトレだけでなく、一般常識テストや検定試験に向けて積極的な学習を促す指導をしていく。
三年部	最高学年として他の模範となる生活態度を実践できる生徒	学校生活だけでなく、今後の生活においても大切なこの7項目(生徒アンケート9～15)を朝終礼時や学年集会にて話し、徹底させる。	「自己評価9～15」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A 90%	B 80%	C 70%	93.4%	A	挨拶・校則(頭髪・服装等)・掃除・整理整頓などについて、朝終礼時や学年集会(年間7回)にて話し、徹底を図った。出来ている生徒と出来ていない生徒に差があったように感じた(昨年に比べ達成値は低下)。課題としては、授業の準備や整理整頓を今後の課題として挙げる。手立てとしては、学年会による放課後等による見回りや声掛けを徹底していきたい。
	進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒	進路ガイダンス等に積極的に参加し、進んで進路実現に努力する。また、週に1度の学年会にて全体・個人に対してのミーティングを行う。(進路指導部長も毎回参加する)	進路決定の割合	A 100%	B 98%	C 96%	100%	A	3年学年部と進路指導部、各学科と連携し、3年生の進路を確定することができた。週に1度の学年会では進路指導主任も参加し、連携を図ることができた。学年集会も行事毎(年間7回)に行い、チームワークと生徒理解にも繋がった。